

世界インターアクト週間によせて

2010～2011年度 第2660地区インターアクト年次大会

インターアクト委員会

委員長 谷野 清孝
(大阪南RC)

2010～2011年度インターアクト年次大会が9月26日(日)大阪桐蔭中学高等学校にて「世界の子供たちに文房具を贈ろう」というターゲットで開催されました。担当校は大阪桐蔭中学高等学校、ホストクラブは大東RCです。当日は、第2660地区松本新太郎G、吉川謹司PG、岡部泰艦GEを迎え、6校の生徒68名、顧問先生15名、ロータリアン38名、ローターアクト1名、事務局1名他4名の127名の参加で開催されました。

開会式の後、各校インターアクト代表からの活動報告があり、続いて8月6日～9日の韓国ソウルでの海外交流、奉仕活動の研修の成果について浪速中学高等学校より報告がありました。

続いて国境なき奉仕団理事長代理、松本秀作氏に講演に来て頂き「国境なき奉仕」の活動を聞かせて頂きました。松本氏の講演では、国際貢献活動は、資金物資援助(OA)、人的(技術)援助の2つに絞られ適切な自己判断のもと、今なすことはなにかを基本に広範囲な奉仕活動に意識をもった人を多くつくり、奉仕に対する自分の既成概念を破ることだと話されました。この講演においては、あらためて「奉仕」という言葉の重みを感じ

ました。

その後、シンフォニックホールにおいて、大阪桐蔭吹奏楽部による演奏で心がいやされた思いでした。

午後からは生徒が、6グループに分かれて、文房具(鉛筆・消しゴム・ノート・その他)、分別梱包、メッセージカードの作成とインターアクトとロータリアンとが汗をかき有意義な奉仕活動を推進できたと思います。

国際奉仕を通じて少しでも貧困から立ち上がる機会をつくることで、子供達の未来に貢献し世界の人々に「日本人の心」を知ってもらいたいと思います。そして、純粋な子供達の喜ぶ姿を考えれば彼らが大人になった時この経験が何かに役立つだろうし、又、世界から見た小さな豆電球のともし火のようなものですが、続けていけば幸せだなという実感がわいてきます。

年次大会の最後は次年度担当の相愛中学高等学校へ引き継ぎを行い無事終了しました。

このような有意義な年次大会を企画運営されました大阪桐蔭中学高等学校の皆様、大東ロータリークラブの皆様、心から感謝申し上げます。今後ともインターアクトクラブへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

